

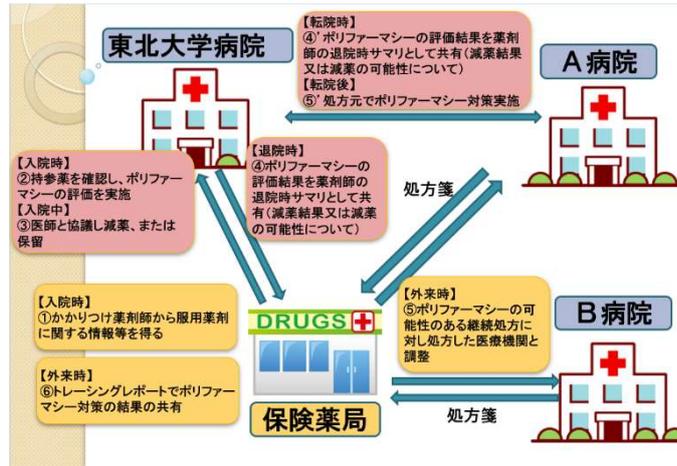
【施設名】 東北大学病院

- ・ 医科診療部門 40 診療科
- ・ 病床数 1,160 床
- ・ 歯科診療部門 13 診療科
- ・ 薬剤師 88 人
(令和 2 年 4 月 1 日現在)



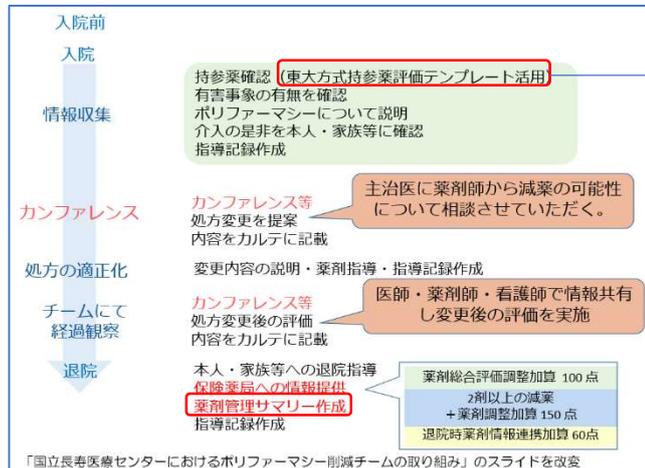
東北大学病院では、令和 2 年 5 月よりポリファーマシー対策について試行を開始した。令和 3 年 2 月より院内で周知し、65 歳以上、10 剤以上の持参薬を服用している患者を対象に順次運用を拡大中である。

【ポリファーマシー対策の概念図】



【院内でのフロー】

入院時に東大方式持参薬評価テンプレートを活用し、持参薬を評価する。また、薬剤変更等に関する情報は、退院時に薬剤管理サマリを作成し、保険薬局と連携する。



日本病院薬剤師会薬剤管理サマリ書式

薬 剤 管 理 サ マ リ 書 式

作成日 2020年11月23日

患者情報: 氏名 [] 性別 [] 年齢 [] 身長 [] cm 体重 [] kg

入院期間: 2020年7月30日 ~ 2020年9月11日

薬剤名	投与頻度	投与時間	投与量	投与回数
アスピリン	<input checked="" type="checkbox"/> 日 1 回			
アセトアミノフェン	<input checked="" type="checkbox"/> 日 3 回			
ロキソニン	<input checked="" type="checkbox"/> 日 3 回			

基本情報: 年齢 [] 性別 [] 身長 [] cm 体重 [] kg

入院中の薬物管理: 自己管理 1日配薬 1回配薬 その他 ()

退院時処方: 処方箋 処方箋付 なし 処方箋

東大方式持参薬評価テンプレート（一部改変）

- (入院時) 持参薬の評価、処方提案
- <総合評価>
- ・ 薬剤調整に関する検討の必要性 あり なし
- ・ 持参薬確認時の定期内服薬剤数 種類
- <処方内容確認>
- 【65歳以上のみ】高齢者の安全な薬物治療ガイドライン 2015『特に慎重な投与を要する薬物のリスト』に該当する薬剤あり ()
- 同効薬の重複投与あり ()
- 効果や副作用の観点から検討対象となる薬剤あり ()
- 薬物相互作用の観点から検討対象となる薬剤あり ()
- 患者特性 (疾患・肝機能・腎機能等) から検討対象となる薬剤あり (検査値:)
- 患者や家族から服薬困難の訴えや薬剤調整の希望あり ()
- 薬剤管理能力の低下のおそれあり
- 認知力低下、□ 視力障害、□ 手指の機能低下、□ 難聴、□ アドヒアランス不良 □ 服薬過誤
- その他:
- 処方意図不明の薬剤あり ()